

令和元年度 周南市友好親善訪問団報告書 (オランダ・デルフザイル市)



周南市
SHUNAN CITY

ご挨拶



周南市では、姉妹都市交流事業の一環として、友好親善と相互理解を深めるとともに、国際感覚の豊かな人材を育成することを目的に、青少年等を姉妹都市へ派遣する事業を行っております。

令和元年度は、オランダ・デルフザイル市へ中学生 12 名、高校生 3 名、市職員 1 名の計 16 名を派遣しました。デルフザイル市への訪問は、平成

2 年の姉妹都市提携以来、今回で 14 回目となります。

団員の皆さんは、事前研修会でデルフザイル市について学び、グループ学習や英会話学習などに取り組みながら、訪問に向けて準備を行い、期待と不安を胸に出発しました。

現地では、ホストファミリーをはじめ、多くの方々との触れ合いを通して、オランダの歴史や文化、生活様式などを学ぶとともに、周南市の紹介や日本の文化を伝えるなど、積極的に交流を深められました。

この報告書は、団員の皆さんがそれぞれの活動で得た、かけがえのない貴重な体験や感動をありのままに綴ったものです。

団員として参加された皆さんには、デルフザイル市の新しい友人を大切にさせていただくとともに、この度の経験を通して得られた自信や学びを、自らの成長の糧とされ、今後の学校生活や地域活動、さらには将来、国際化社会の中で活躍されることを期待しております。

終わりに、本事業の実施にあたり、ご支援とご協力を賜りました学校関係者や保護者の皆様、デルフザイル市役所、実際に日々の活動プログラムを計画された姉妹都市交流財団の方々、そして、団員を温かいおもてなしで受け入れていただきましたホストファミリーの皆様に心から感謝申し上げます。

周南市長 藤井 律子

Netherlands Groningen オランダ フローニンゲン

Gemeente

Delfzijl

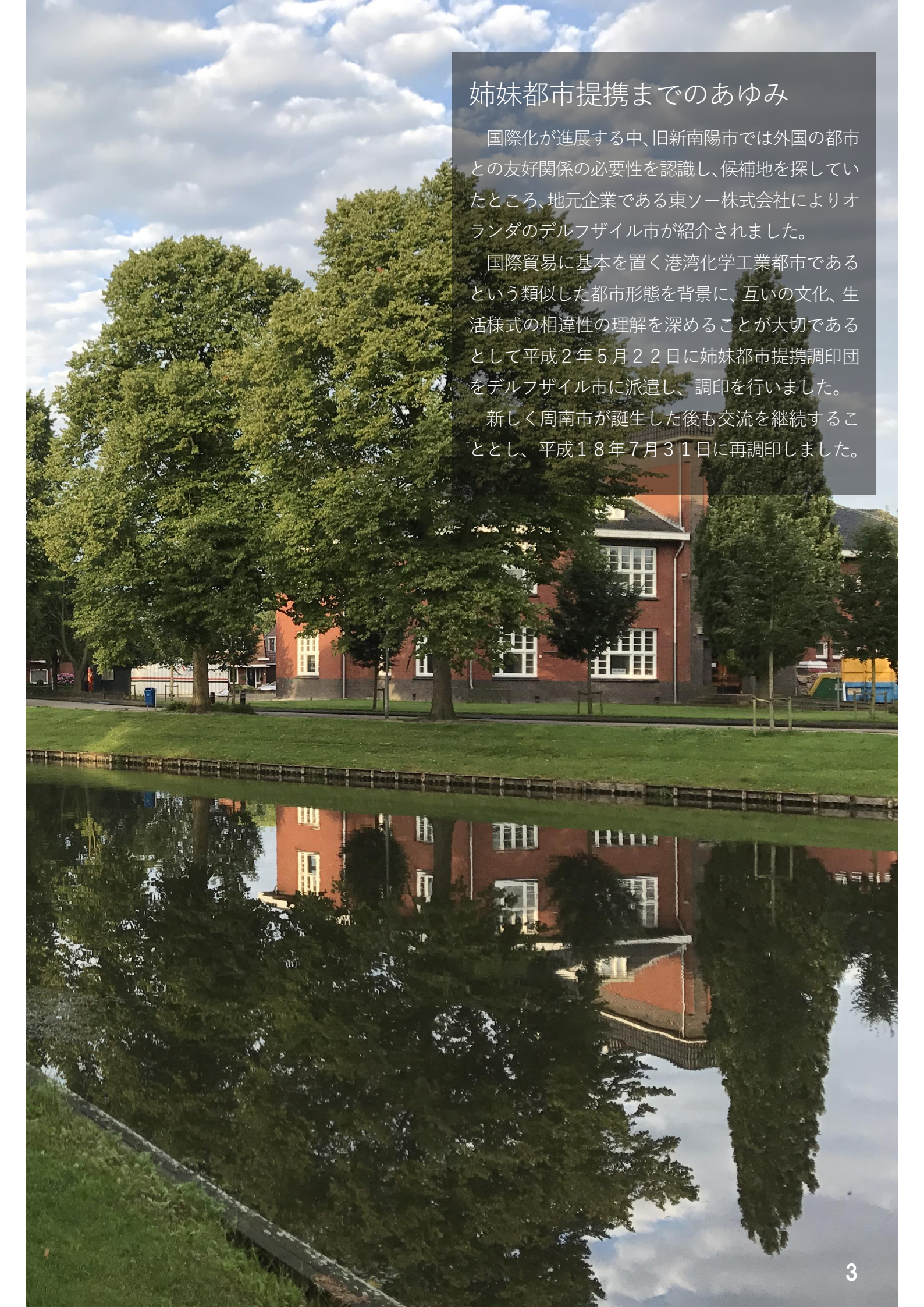
デルフザイル市について

市の概要

デルフザイル市は、オランダのフローニンゲン州北部に位置する港湾都市であり、岩塩と天然ガスの発見により化学工業を主体とする工業の街として発展しました。また、天然の良港を有し、周南市と都市形態が似ています。住宅街はレンガ造りの瀟洒な家々が並び、自然を多く残した美しい街です。（デルフザイルという名は、デルフ川にあった水門「ザイル」に由来している）

- 人口／約25,000人
- 面積／約227km²
- 言語／オランダ語
- 通貨／ユーロ(EURO)
- 交通／アムステルダム市から車で約3時間





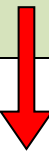
姉妹都市提携までのあゆみ

国際化が進展する中、旧新南陽市では外国の都市との友好関係の必要性を認識し、候補地を探していたところ、地元企業である東ソー株式会社によりオランダのデルフザイル市が紹介されました。

国際貿易に基本を置く港湾化学工業都市であるという類似した都市形態を背景に、互いの文化、生活様式の相違性の理解を深めることが大切であるとして平成2年5月22日に姉妹都市提携調印団をデルフザイル市に派遣し、調印を行いました。

新しく周南市が誕生した後も交流を継続することとし、平成18年7月31日に再調印しました。

概略日程

月 日	現地時間	日本時間	発着都市名	日 程
7月31日 (水)	14:25 16:15 17:45	6:33 10:00 20:25 22:15 24:45	周南市 ヘルシンキ市 アムステルダム市	徳山駅発 福岡空港発 ヘルシンキ空港着 ヘルシンキ空港発 スキポール空港着 (ホテル泊)
8月1日 (木)	午前 午後 17:00		 デルフザイル市	市内視察(アンネの家、国立美術館) アムステルダム市発 デルフザイル市着、歓迎会、ホストファミリー面会 (ホームステイ)
8月2日 (金)	午前 午後 夕方			ホストファミリープログラム スポーツスクール「協調道場」にてスポーツプログラム、 エオリスの風車見学、バーベキュー (ホームステイ)
8月3日 (土)	終日			ホストファミリープログラム (ホームステイ)
8月4日 (日)	終日			ホストファミリープログラム (ホームステイ)
8月5日 (月)	午前 午後 夕方			ブールタンク要塞散策 クライミング・パーク・フロローにてジップライン体験 (ホームステイ)
8月6日 (火)	午前 午後 夕方			海洋青年団による海でのプログラム チュケムにある牧場視察 お別れ会 (ホームステイ)
8月7日 (水)	午後 13:00		 アムステルダム市	デルフザイル市出発 アムステルダム市到着 (ホテル泊)
8月8日 (木)	午前 11:55 15:15 16:30		アムステルダム市 ヘルシンキ市	ホテル出発 スキポール空港発 ヘルシンキ空港着 ヘルシンキ空港発 (機内泊)
8月9日 (金)		8:15 11:04 12:20	周南市	福岡空港着 博多駅発 徳山駅着

令和元年度友好親善訪問団 団員名簿



12 山口県立高森みどり中学校3年
ページ 上野 穂香 Ueno Honoka

14 周南市立岐陽中学校3年
ページ 内田 亜希 Uchida Aki

16 山口県立高森みどり中学校3年
ページ 窪田 仁胡 Kubota Niko

18 周南市立岐陽中学校1年
ページ 城 茉友果 Jo Mayuka

20 周南市立周陽中学校2年
ページ 臺信 翔太 Dainobu Shota

22 周南市立岐陽中学校2年
ページ 田中 大遥 Tanaka Taiyo

24 周南市立岐陽中学校3年
ページ 野見山 遥 Nomiya Haruka

26 周南市立岐陽中学校2年
ページ 橋本 奏人 Hashimoto Kanato

28 周南市立周陽中学校2年
ページ 長谷川 鴻 Hasegawa Ko

30 周南市立住吉中学校2年
ページ 福永 士輝 Fukunaga Shiki

32 周南市立富田中学校1年
ページ 安村 洋太 Yasumura Hirota

34 周南市立熊毛中学校1年
ページ 渡邊 心花 Watanabe Cocona

36 山口県立下松高等学校2年
ページ 澤野 航 Sawano Ko

38 山口県立防府高等学校2年
ページ 城 実里 Jo Misato

40 山口県立徳山高等学校1年
ページ 林 望 Hayashi Nozomu

42 周南市観光交流課
ページ 守重 一史 Morishige Kazufumi

(中・高生 五十音順)

友好親善訪問団活動の様子

【オランダ デルフザイル市 令和元年7月31日～8月9日 8泊10日】

記：周南市友好親善訪問団 団長 守重 一史

7月31日(水)

JR徳山駅に早朝6時に集合し、福岡空港からフィンエアー（フィンランド航空）でヘルシンキ空港を経由し、アムステルダムスキポール空港へ向かいました。

約15時間かけて無事にアムステルダムに到着しました。ヨーロッパは長期休暇期間真只中のため、空港内は観光客でごった返していました。

長時間のフライトで私は疲れたのですが、団員達のまだまだ元気な様子に驚かされました。この日は、そのままホテルに直行し、夕食を食べて就寝しました。

8月1日(木)

午前中はアムステルダム市内視察で、アンネ・フランクの家と国立美術館を見学しました。

アンネ・フランクの家では、アンネの隠れ家生活を目の当たりにして多くの団員が衝撃を受けていました。

アムステルダム国立美術館では、迫力あるレンブラントやフェルメールなどの絵画作品を間近に鑑賞することで、ヨーロッパの文化・芸術や歴史を感じることができました。

バスでの移動中は、運河沿いにレンガ造りの建物がひしめき合うように並んでいるアムステルダムならではの美しい街並みに感動し、写真をたくさん撮りました。

昼食後、バスで3時間かけてデルフザイル市へ到着し、市役所では、吹奏楽団による演奏に合わせ、多くの方が手を振って温かく出迎えてくれました。



出発の朝。早朝にも関わらず、皆元気な様子でした。



経由地のヘルシンキ空港にて



アンネ・フランクの家



アムステルダム国立美術館

議場で歓迎会が行われ、訪問団員を代表して上野さんが、英語でしっかりと御礼の挨拶を行いました。団員全員が行った英語のプレゼンテーションでは、皆、緊張することなく堂々と発表でき、多くのお褒めの言葉をかけていただきました。歓迎会終了後はホストファミリーとの対面です。まだまだ緊張している団員に対し、ホストファミリーの温かい笑顔が安心感を与えてくれました。



挨拶する上野さんとインタビューを受けた澤野さん

8月2日(金)

午前中は各自ホストファミリーと過ごしました。デルフザイル市内やその周辺へ出かけたようですが、早速、車で 30 分かかるフローニンゲン市(デルフザイル市が属するフローニンゲン州の最大都市)まで連れて行ってもらった団員もいました。

午後は、市内のスポーツ施設で、ホストファミリーをはじめとした現地の子も達と一緒に、ダンスやサッカーなどのスポーツで汗を流し交流を深めました。昨年、周南市を訪問してくれたデルフザイル市の子も達がたくさん参加してくれました。

夕方は、永源山公園にある「ゆめ風車」のモデルになったエオリスの風車を見学した後、バーベキューをいただきながら、交流を深めました。

料理人の方が本格的に準備してくれたバーベキューがとても美味しく、団員をはじめ多くの方が、料理を食べ続けていました。

団員達がホストファミリーの子も達と笑顔で会話する姿が見られ、少しずつ打ち解けは始めているようでした。



英語によるプレゼンテーション



現地の子も達とのスポーツ交流



エオリスの風車の上で



料理人の方が作るバーベキューは本格的でした。

8月3日(土)、4日(日)

土日の2日間は、ホストファミリープログラムとして、終日、それぞれのホストファミリーと過ごしました。

私は、土曜日は、ホストファミリーのボッシャーさんにフローニンゲン市の中心市街地を案内していただきました。夕方、ボッシャーさんのご自宅でご家族や近所の方、姉妹都市交流財団会長のスワルトさんも交えてバーベキューを行いました。「日本食を作れる？」と聞かれたので、添乗員の方と一緒に日本のカレーを作りました。食材は、フローニンゲン市で手に入れることができ、出来上がったカレーはとても好評でした。

日曜日は、ボッシャーさんのご自宅のあるテルムンテン周辺をサイクリングしました。途中休憩はありましたが、お昼前から5時間程度自転車をこぎ続けたので、家に戻って来た時には足がつりそうになりました。

8月5日(月)

この日は、8時15分に市役所に集合し、3日ぶりに団員全員が顔を合わせました。同行するホストファミリーと一緒にバス

に乗車し、周辺部へ向け出発しました。午前中は、ドイツとの国境付近にあるブルタング要塞を訪れました。この要塞は、オランダ独立戦争時に建設された星の形をした要塞ですが、ここまで美しい形を残しているのはヨーロッパでも珍しいそうです。要塞の中には教会やお店があり、ゆっくりと散策しました。

午後は、クライミング・パーク・フロローにて、滑車を含めた器具を腰回りに装備し、木々の間に張られたワイヤーロープを滑り降りるジップラインの体験を行いました。

コースは、長さや高さに合わせて、レベル1から5までに分かれています。多くの団員が難易度の高いコースに挑戦しており、恐怖は感じていない様子でした。体験時間は2時間程度与えられていましたが、それでも時間が足りないようでした。



フローニンゲン市の中心部



フローニンゲン駅



ホストファミリーと一緒に要塞を散策



ジップライン体験の準備もバッチリ

8月6日(火)

午前中は、デルフザイル市中心部近くの港で、海洋青年団が海での各種アクティビティを体験させてくれました。ここでは、セーリングやボート漕ぎ、エンジン付きゴムボートなどを体験しました。この日少し肌寒かったですが、団員達は水着に着替えて元気よくアクティビティを楽しんでいました。



セーリングはなかなか難しかったようです。

午後は、チュケムにあるブラーカさんの牧場や農場を訪問しました。ブラーカさんはホストファミリーの1人で、丁寧にご自身が経営されている事業について説明してくれました。牧場訪問は、毎回、現地プログラムに入っているのですが、牧場特有の強い匂いにはどの年の団員も苦しむようで、今回も多くの方が思わず声を上げていました。



おとなしい牛なのでたくさん触らせてもらいました。

夜は、市内のレストランでお別れ会を開催していただきました。食事が一通り終わったところで、デルフザイル側の出し物として、空手のパフォーマンスや歌の披露がありました。また、城実里さんとホストマザーのブラーカ夫人とのトロンボーンとフルートによるサプライズ演奏も行われ、会場が一気に盛り上がりました。その後、窪田仁胡さんの紹介により、団員からのお礼の出し物（歌2曲の合唱）が始まりました。



「幸せなら手をたたこう」を英語で歌った際は、デルフザイルの方々も一緒に歌ってくれて、会場が一体感に包まれました。また「世界に一つだけの花」を歌い終わった直後に折り紙で作ったチューリップをお世話になった方々へ渡した際には、皆が大変喜んでくれました。最後に、城実里さんが英語で感謝の気持ちを伝えたのですが、その場面が感動的で私も思わず目頭が熱くなりました。



お別れ会の様子。窪田さんの司会でパフォーマンスがスタート！最後は城さんが感謝の気持ちを伝えました。

8月7日(水)

楽しかった時間もあっという間に過ぎ、お別れの日となりました。午前中はホストファミリーと最後の時間を過ごし、お昼に市役所に集合しました。出発する前に、今年の3月に完成したばかりの駅前広場に建てられた、周南市とデルフザイル市の友好関係を象徴する句碑を見学しました。句碑には「友好の 色咲き継ぐや チューリップ」という句がローマ字で彫られていました。この日のために、デルフザイル側が準備してくれた、特製Tシャツを着て記念撮影を撮りました。

句碑の前で写真を撮った後は、ついにお別れです。ホストファミリーをはじめ、多くの方々がお見送りに来られている中、別れの悲しさで涙する団員もいました。デルフザイルの方々は、バスが見えなくなるまで手を振り続けてくれました。本当に親切な人たちだと改めて感じました。

バスで3時間かけて、アムステルダム市に戻ってきました。ホテルに到着する前に、ホテル近くにあるショッピングモールにて自由時間をいただきました。モール内には色んな種類のお店が入っており、見て廻るだけでも十分楽しめました。団員達は、お土産の買い忘れが無いよう、あらゆるお店を廻って沢山のお土産を買い込んでいました。

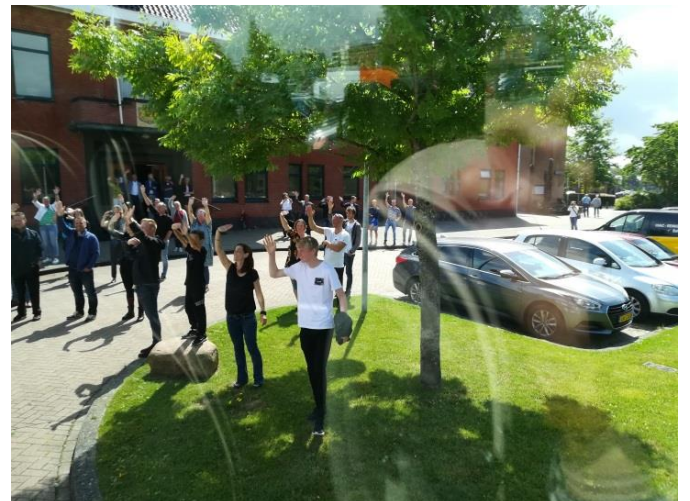
ホテルに到着後、夕食を済ませ、各自部屋へ戻りましたが、オランダ最後の夜ということで、遅くまで起きていた団員もいたようです。



句碑の前での記念撮影



いよいよお別れの時がやってきました。



別れを惜しむ団員とホストファミリー。私たちのバスが見えなくなるまで手を振って見送ってくれました。

8月8日(木)

11時55分にアムステルダム市のスキポール空港を出発し、ヘルシンキ空港を経由して、福岡空港へ向かいました。スキポール空港、ヘルシンキ空港それぞれ待ち時間があり、最後の買い物に余念がありませんでした。帰りの機内では、さすがに皆疲れた様子で、多くの団員が熟睡していました。帰りのフライトは、行きよりも短く感じたのではないのでしょうか。

8月9日(金)

朝、機内にて朝食をいただき、8時15分に無事、福岡空港に到着しました。

福岡空港に着いて飛行機を出た瞬間に感じた異常な蒸し暑さが、日本に帰って来たことを実感させてくれました。同時に、この時期はオランダがとても過ごし易い気候であることを改めて認識しました。また、団員の中には「日本語が聞こえてくることで現実に引き戻された」と言っている団員もいました。

長旅で疲れていましたが、最後の力を振り絞って博多駅にて新幹線に乗り、お昼に徳山駅に到着しました。駅にはご家族の方々が迎えに来てくれており、久々の再会に照れ臭さそうにしていた団員もいましたが、皆が10日振りに家族に会えて安心した様子でした。団員のご家族から、「お世話になりました」とのお言葉をいただき、団員15名全員を無事ご家族の元へ送り届けることができたことを実感し、私自身安心しました。

この10日間の全ての出来事が、団員達にとって、人生におけるかけがえのない経験となることは間違いありません。この経験を生かして、これからの人生を切り拓いてほしいと思います。



ホテルでの夕食



経由地のヘルシンキ空港にて（出発日から再び）



これから日本に戻ります。



全員無事に徳山駅に戻ってきました。



福岡空港に到着



上野 穂香

Ueno Honoka

(ホストファミリー Roelevink 家)

■ デルフザイル市の印象・体験

私たちが周南市友好親善訪問団として訪れたデルフザイル市はとても素晴らしい場所でした。人々はとても親切で明るく、私がホームステイした家の近所の人は私に自転車を貸してくれたり、家の前での家族写真を撮ってくれたりしました。私が作ったちらし寿司もホストファミリーと一緒に箸を使って食べてくれました。海岸沿いに立っていた工場は周南市程ではないけれど大きかったです。すぐそこにドイツが見えパスポートなしで行けるということがすごく不思議な感じでした。

■ ホストファミリーについて

私が周南市友好親善訪問団として訪れた国オランダは、私にとってとても大切な場所となりました。オランダを体全体で感じながらホストファミリーと過ごした10日間は、とても充実した日々で、一生忘れないような思い出を作ることができました。

私は、日本を出発してからホストファミリーと対面するまで、



ずっと行ってみたいと思っていたヨーロッパへ行けるということに対する嬉しさでわくわくしている反面、自分の英語がオランダの人に通じるのか、日本とは勝手の全く違うオランダでホストファミリーと一緒に生活することができるのかとても不安でした。

しかし、不安になる必要は全くありませんでした。デルフザイル市役所についてバスから降りた私に、ホストファミリーの皆は優しく手を振ってくれて、対面式の後には「旅はどうだった」と話を盛り上げてくれました。この時、自分が話した英語が通じたので自分の英語に少し自信が持て、自分から積極的にホストファミリーに話しかけることができました。

私のホストファミリーは、お父さん、お母さん、16才の Niels、14才の Erik の四大家族で、みなとても優しく面白かったです。ホストマザーは私の事を娘のようにかわいがってくれて、私が言葉に詰まっている時も私が何か言うまで待っていてくれました。ホストファザーはいつも面白いことを言って私を笑わしてくれたり私を色々な所に連れて行ってくれたりしました。Niels は私と1歳しか変わらないとは思えないくらい大人びていてとても優しくかったです。日本語を勉強していたので、私に日本語で話しかけてくれたりしてとても嬉しかったです。とてもたくさんの事を知っていてオランダについてたくさんの事を教えてくれました。また、自転車で教会など様々な場所に連れて行ってくれて、移動中にはいろんなオランダ語を教えてくれました。Erik はとても面白くて優しくかったです。Erik は HOMAS というボードゲームがすごく強くて1回勝てた時はすごく嬉しかったです。でも、DOOLHOF というボードゲームは弱かったです。3人でマリオカートもしましたが、いつも Niels が1位で、Erik が2位で全然勝てませんでした。フローニンゲンやろうそく作りに連れて行ってくれたり兄弟のように一緒にサイクリングやゲームをしたりしました。ホストファミリーと食べる最後の夕食の時にホストファミリーが本物の木靴をプレゼントしてくれてとても嬉しかったです。

このホストファミリーに出会えて本当に良かったです。

■ 訪問団に参加して

今回のデルフザイル市訪問でたくさんの人との出会いとたくさんの発見がありました。私を受け入れてくれたホストファミリーの皆は私にとってとても大切な家族のような存在です。

これからはこの貴重な経験を自分の成長につなげていきたいと思えます。

英語の勉強に力を入れもっと自分の思いを英語で伝えられるようになりたいと思います。

たくさんの面白いプログラムを企画してくださったデルフザイル市の皆さん、私をオランダに送り出してくれたお父さん、お母さん、私を暖かく迎え入れてくれて、たくさんの思い出を作ってくれたホストファミリー、一緒にオランダに向かいたくさんの事を共に経験した団員の皆本当にありがとうございました。



手作りのろうそく体験
兄弟と3人で秒数を数えながらやるのがすごく楽しかったです。



フローニンゲンのチーズ屋さん
日本ではなかなか見ることでないような大きなチーズが沢山あってすごかったです。



内田 亜希

Uchida Aki

(ホストファミリー Ten Kate 家)

■ デルフザイル市の印象・体験

友好親善訪問団がデルフザイル市に着いた瞬間からずっと感じが良くて優しくだと思っていました。私は誰とでもすぐに仲良くなる現地の人に驚きました。始めて出会った人とすぐに仲良くなるなんて日本ではあまりありません。デルフザイルのその環境は素晴らしいです。デルフザイル市での素敵な体験で印象に残ったものはたくさんあります。その中でも一番印象に残ったものはカヌーです。私がカヌーに乗りたいたいと言うとすぐに連れて行ってくれました。とても楽しくて時間が経つのを忘れてしまいました。カヌー以上に楽しかったのは乗馬です。私のホストファミリーは三頭の馬を飼っており、それにさせてくれるというのです。初めはすごく怖かったのですが乗っているうちにだんだん慣れてきて楽しいひと時を過ごすことが出来ました。ホームステイ中、何度も乗馬を体験させてもらいました。



■ ホストファミリーについて

私のホストファミリーは本当に親切で感謝しても足りないほどお世話になりました。

父の Ludolf は、仕事が忙しくて一緒にいられる時間は少なかったです。ですが毎日昼食を食べに家に帰ってきた時には気さくに話しかけてくれました。そのおかげですぐに仲良くなる事が出来ました。

母の Ellen は、いつも優しくて気の利く素敵な人です。英語がうまく聞き取れない私が理解出来るように、ゆっくり話してくれたりジェスチャーを交えながら私が成長出来るようにサポートしてくれました。

Silke は、私のお土産の折り紙が気に入ったらしくて、いつも折り紙を教えてと言っていました。私はそれがとても嬉しかったです。

Isis は、いつも私の事を考えてくれていました。いつも私に話しかけてくれました。私の知らない単語があるときは翻訳機能を使って教えてくれました。二人でトラクターに乗ってじゃがいもを収穫しました。日本ではなかなかできないじゃがいもの収穫が出来て嬉しかったです。

Jelte は、私がお土産で持って行ったけん玉が気に入ったらしくずっと遊んでいました。英語の発音が上手くない私に一音一音丁寧に発音を教えてくれました。そのおかげで苦手だった発音の仕方が分かるようになりました。



4人で肩を組んで

■ 訪問団に参加して

今回のホームステイで貴重な体験をたくさんすることが出来ました。もともと好きだった英語がもっと好きになり、苦手な英語の発音も上達することが出来ました。参加して良かったです。



涙が止まらなかったホストファミリーとお別れ

NoaとChanelとのスリーショット



窪田 仁胡

Kubota Niko

(ホストファミリー Venselaar 家)

■ デルフザイル市の印象・体験

私がデルフザイルで、たくさんの方々から迎え入れてもらった時に感じたことは、皆がみんな優しく、面白い方々が多いのだろうと感じました。実際とても優しく迎え入れてくれて、不安という気持ちが飛んで行きました。



これから、デルフザイル市での滞在がスタートします。

■ ホストファミリーについて

私のホストファミリーは、41 歳のお母さんHildaと21 歳の長女Chanel、18 歳の次女Noaの3人家族の元に行きました。

Venselaar 家の印象は皆面白く、フリーダムだなあという感じでした。実際予想以上にフリーな家庭でした。Chanel はとても親切で、家まで帰る間私のスーツケースを持ってくれました。Noa はバスの待ち時間や帰り道に沢山話しかけてくれました。

また、2 日目のスポーツ・アクティビティは、色々な人のホストファミリーと話をしたり、協力して一つのことを成し遂げたりしたのでとても楽しい一日になりました。土日には、奏人くんのホストファミリーとNoa 達とフローニンゲンの街に行ったり、動物園に行ったりしました。

フローニンゲンでは、高い塔に登ったりひたすらショッピングをしたりしました。ここで、日本にもあるフライングタイガーやJapanese Store をみつけ、少し日本にいたように感じてテンションが上がりました。

動物園では、可愛いアザラシや鼻を見て、心が癒されました。



とても高い塔の前でNoaと奏人くんのホストファミリーと記念撮影。

■ 訪問団に参加して

私は英語で話すことに自信がなく、学校で行われたイングリッシュセミナーではALTの先生方やペリースクールの子供達と会話することが全くできませんでした。

ですがこの友好親善訪問団に参加し、少し自分の英語に自信ができました。私は将来、英語を利用した職業に就きたいと思っているので、今回で学んだことを大切にしていきたいと思います。



奏人くんのホストファミリーと共に昼食中



5日目のスポーツ・アクティビティ！
かなり楽しかったです。



城 茉友果

Jo Mayuka

(ホストファミリー Bindels 家)

■ デルフザイル市の印象・体験

私が想像していたデルフザイル市は牧草が広がり、風車がたくさんあって、周南市よりも田舎の町でした。

でも、実際に行ってみると、もちろん牧草が広がっていましたが、想像していたよりも家がたくさんあり、最新式の風車があって、街でした。



そんなデルフザイル市で、心に残っていることは、市場のような所に連れて行ってもらったことです。そこで、たくさんのチーズを売っていたり、ストロップワッフルを売っていたりしました。さらに囲いの中に、鳥がたくさんいました。日本ではあまり見ない光景にとっても驚きました。

■ ホストファミリーについて

私のホストファミリーは、お父さん、お母さん、お兄さん、お姉さん、弟さん、妹さんの6人家族でした。みんな、私のことを気にかけて、とても優しく接してくれました。私にも分かるように、ゆっくりと英語を言ってくれたり、少しジェスチャーを使ってくれたりしました。休日は、私をいろいろな所へ連れて行ってくれました。例えば、フローニンゲンに連れ行ってくれて、そこでショッピングをしたり、動物園に連れて行ってくれたり、水族館へ連れて行ってくれたり、とても楽しい休日を過ごすことができました。

家でも映画を見るときに私が分かるように日本語の字幕を出してくれたり音声を日本語にしてくれたり、とても優しい家族でした。

外でのアクティビティの時にはお姉さんは、必ず、時にはお父さんとお母さん、妹さんも来てくれて、1人になることは1回もありませんでした。私はいつも安心して活動に参加することができました。

■ 訪問団に参加して

私は今回の友好親善訪問団に参加してもっと頑張りたいと思ったことがあります。

私はあまり英語が話せません。だから、知っている単語を並べたり、ジェスチャーを使ったりして自分の気持ちを伝えたいと思っていました。

でも、初日は緊張してあまり気持ちを伝えることができませんでした。

ホームステイに慣れて来た頃に、自分の気持ちを伝えようとジェスチャーを使ったり、単語を並べて話したりすると、ホストファミリーも私の伝えたいことを分かろうとして、一生懸命聞いてくれました。

初日はとても緊張して、思いを伝えられなかったけれど、ホストファミリーのこのような姿を見て緊張もゆるみ、自分の思いを伝えられるようになりました。

これからもっと英語を勉強して、ジェスチャーに頼ったり、単語を並べたりするのではなく、自然に会話ができるようになりたいです。そして、海外の人とコミュニケーションがとれるようになりたいと思っています。



みんなとても優しいホストファミリーです。



野生のアザラシを見に連れて行ってもらいました。



ホームステイ先
私のために両国の国旗を掲げて下さいました。



臺信 翔太

Dainobu Shota

(ホストファミリー Wijkstra 家)

■ デルフザイル市の印象・体験

僕のデルフザイル市の印象はとても自然が豊で、ホストファミリーの家周りには畑が広がっていました。車で移動中の時も窓から牛や馬、羊を見ることが出来ました。住民同士の仲もとても良かったです。なぜなら、僕のホストマザーは行く先々でたくさんの人に話しかけていたからです。

体験したことは二つあります。

一つ目は、ホストファミリーと一緒に教会に行ったことです。外国の教会の天井はもの凄く高かったのでとても驚きました。外国の教会は日本の教会に比べて、とても広く大きかったです。

二つ目は、外国の動物園に行きました。徳山動物園とは比較にならないくらい大きかったです。更に日本では見ることのできないラクダや鳥、魚を見ることができました。外国でしか見ることのできないものを見ることができたので嬉しかったです。



教会の屋根裏です。左のでこぼこは教会の天井に当たるところです。

今回、初めて屋根裏に行きました。

■ ホストファミリーについて

ホストファミリーは母と父がいて娘が二人、里子が六人と犬が二匹、猫が三匹、鳥が数え切れない程いて他にもモルモットみたいな動物が二匹と馬、ヤギがいました。

母の名前はクリスです。クリスはとてもやさしくて僕を色々なところに連れて行ってくれました。さらに、彼女は僕が英語の意味を理解していないときは体を使って表現してくれました。滞在中、僕は驚いたことがあります。クリスは僕とサネが市のプログラムを終えて家に帰るとクリスは「鳥を買ってきた。」と言い見せてもらおうとそこにはアヒルが五羽いました。僕は、外国だとこんな簡単に買うことができるということがわかりました。

父の名前はジープです。あまり一緒に行動はできなかったですが、会う度にと優しく「Hallo」と声をかけてくれました。

サネはクリスの娘でとても K-POP が好きで車でも聴いていました。サネは英語を使っていましたが僕が意味を理解していないときには Google 翻訳を使って教えてくれました。

エヴァは、サネの妹です。いつも笑顔で話してくれ、気になったことを質問すると丁寧に説明してくれました。

他にも里子が6人居て皆優しく接してくれました。里子とは余り関わりは無かったけど、家に帰ると出会うことが多かったです。

この家族は夜に Netflix でアニメやドラマ、映画を見ていました。

■ 訪問団に参加して

今回のオランダ友好親善訪問団に参加して感じたことは英語を余り話せなくても表現で通じることが分かりました。あと挨拶も大事だということと、これからも外国に行き他国の文化に触れてきたいと思いました。



ホストファミリー宅です。
馬とヤギがいて隣には物置小屋があり、そこにはキャンピングカーがありました。クリスマス休みに家族でキャンプに行くらしいです。



ホストファミリーです。



ホストマザーのクリスを買ってきたアヒル

ホストファミリー宅の庭です。
庭は周南市とは比べものにならないくらいとても広かったです。

ホストファミリーとの記念写真

みんな背が高くとても驚きました。長男のエリックによると背が高くなる秘訣は日常的に牛乳を飲むことらしいです。



田中 大遙

Tanaka Taiyo

(ホストファミリー van Dijk 家)

■ デルフザイル市の印象・体験

周南市友好親善訪問団の団員になってオランダに行きたい！と参加申し込みをしてから話が具体的に進むうちに、僕は不安になりました。なぜなら英語は話す自信がないし、オランダまでの移動時間は17時間、時差はマイナス7時間と、今まで経験したことのないことだらけだったからです。

しかし、実際経験してみると行きの飛行機の中は快適で、一睡もせずに過ごしました。デルフザイル市に着いたときは、空気のおいしさを感じました。山がなくて、地平線というもの初めて見ました。永源山にある風車とは比べ物にならないくらい大きな風車を見たり、放水体験や牧場見学、バウルタンゲを観光したりしました。



ボートがとても速かったので乗っている間は視界がめっちゃくちゃでした。この後ドーナツ型の浮き輪に乗ってボートで引っ張ってもらったりして楽しく過ごしました。

■ ホストファミリーについて

ホストファミリーは趣味が多く、僕にいろいろな体験をさせてくれました。

一家に一台ボートがある環境らしく、ボートに乗って湖に行き、ドーナツ型の浮き輪に乗った僕をボートで引っ張ってくれたり、車で2時間くらい移動してトラックレースに連れて行ってくれたり、ドイツの国境近くまでバイ

クの後ろに乗せてもらって連れて行ってくれたりしました。馬2頭とウサギ2匹、鯉を飼っていて、馬に乗せてもらいました。おとなしくてかわいかったです。庭で射的、アーチェリーをしたり、屋内には卓球台やテレビゲームなどがあり、事前に卓球台があると聞いていたので卓球部の僕は自分のラケット持って行って家族と対戦したりしました。

長男のエリックは高校でラグビー部に所属していて、ラグビー部の練習に参加させてもらいました。みんな背が高くてがっしりとしていて、はじめは怖く感じたけどみんな親切で優しく接してくれました。

長男のエリックは18歳、次男のルークは16歳で、ぼくは二人の弟になったと感じるくらいに家族みんなが優しく親切で、楽しく過ごしました。英語は単語やジェスチャーで伝わったし、ホストファミリーが何を言っているかわかりました。今思えば、ホストファミリーが分かりやすく話してくれていたのだと思います。

■ 訪問団に参加して

今回の訪問で一番印象に残ったことはホストファミリーが家族のように優しく接してくれたことです。また、ぼくはオランダにきて様々な経験をしました。言葉の壁を感じたり、文化の違いも感じたりしましたが、この訪問から英語をもっと学びもう一度外国の方々と話をしてみたいと思いました。この経験を生かしてもっと積極的に行動できるように頑張りたいです。

カヌーの前に見たアザラシもとても印象に残っています。病気になったり、迷子になったりしてしまったアザラシを保護している施設に連れて行ってもらいました。アザラシを見るのも初めてで、すごくドキドキしました。水から出てくるタイミングがなかなか掴めないで写真を撮るのが難しかったです。

お別れ会のときには、皆で折り紙を折りました。はじめての折り紙にホストファミリーは戸惑っていました。日本人にも、折り方を教えるのは大変なのに、言葉がなかなか伝わらないホストファミリーに伝えるのは難しかったです。でも、折る手つきをゆっくり見せるとちゃんと伝わり、きれいなカエルができてうれしかったです。作ったあとは、皆で飛ばして遊びました。日本の文化を知ってもらえてよかったです。

このホームステイを通じてオランダという国は、自分たちの国の文化や特徴を大切にしている国で、人々はみなユーモアがあり心優しい人ばかりだということがわかりました。これから、オランダの良さをたくさんの人に伝えていきたいと思いました。訪問団の仲間やホストファミリーの方々との思い出をアルバムやお土産と共に大事にしていきたいです。



トラックスレースです。



国境近くまでツーリングに行きました。着くまでの約30分間は必死に父のマークにしがみついていた。



乗ったときは不安でいっぱいでしたが、おとなしく暴れたりしないので楽しむことができました。

ホストファミリーの自家用ボートでクルージング



野見山 遙

Nomiyama Haruka

(ホストファミリー Mulder 家)

■ デルフザイル市の印象・体験

首都のアムステルダムから三時間かけ、のどかなデルフザイルに着きました。ホームステイに不安を抱えている私たちに温かな拍手と演奏で出迎えてくれました。とても気づかってくれて緊張も徐々にほぐれていきました。

プログラムにより、みんなでスポーツやBBQ、観光、海上体験や牧場体験をしました。自分のホストファミリーだけでなく、たくさんのデルフザイルの方々と触れ合うことが出来ました。



クライミング・パーク・フロローでの体験

■ ホストファミリーについて

私のホストファミリーは、一昨年度もホストファミリーをしていたので大きな不安はなかったのですが、やはり英語の難しさを痛感しました。家族内ではオランダ語を話していたので最初はいつ喋りかけられていたのか分からず、聞き返してしまう事が何度もありました。でも、何とか会話しようとジェスチャーや電子辞書を使い自分の思いを伝えました。すると、相手もそれに応えようとして積極的に話しかけてくれました。私のホストファミリーは渡邊さんのホストファミリーと仲が良くてよく一緒に過ごしていました。市場に行ったり、野生のアザラシを見たり、フローニンゲンという街で自家用ボートに乗ってクルージング観光、レストランや、家でBBQ、ドイツのスーパーで買い物などいろんな体験をさせてくれました。私にいろんな経験をさせようと、初めて食べるであろう料理を作ってくれたり、ちょっと食べてみてと試食程度にいろいろ食べさせてくれたり、食文化にたくさん触れることが出来ました。家にTibbyという犬がいました。私は動物が苦手で、最初は家中を逃げ回っていましたが英語と一緒にコミュニケーションを取ることで、Tibbyが大好きになりました。



ホストファミリーです。

■ 訪問団に参加して

今回の訪問団には平成29年度に応募して外れ、2回目の応募でした。中学3年間の集大成として参加し、私の英語力を試す機会でした。分からないこともたくさんあったのですが、やはりコミュニケーションは大切だと思いました。ホストファミリーのイルセは3年前に周南市に来ていて、日本語も少し知っていました。もっと、日本語を学びたいと言っていたので、「まっすぐ」や「楽しんで」を教えました。私に「エイトスマーカラカ」いただきますというオランダ語を教えてくださいました。最初は話しかけてくれたけれど私の趣味を話してからどんどん自分から話しかけられるようになりました。

オランダに行って英語だけでなくたくさんの経験をすることが出来ました。この10日間の充実した日々を忘れず、人生の身になるようにこれからも頑張ります。



オランダとドイツの国境風景

とても優しく、親身になってくれたホストファミリーです。



橋本 奏人 Hashimoto Kanato

(ホストファミリー
Lichtenberg/ de Haan 家)

■ デルフザイル市の印象・体験

オランダの人は背が高いと聞いていましたが、本当に高かったです。

街並みはレンガ造りの家が多く、歴史を感じましたが、家の中は、現代的で清潔感がありました。どの家も花が飾ってあってきれいでした。

食べ物は味が濃く、日本とはかなり違っていましたが、チーズがおいしかったです。



レンガ造りの街並み

デルフザイル市は、アムステルダムと比べるとビルが少なく、レンガ造りの家が多かったです。

そして、デルフザイル市には素晴らしい夜景がありました。周南市とは違い、町の中に工場があるという感じではなく、住宅地を離れた所にポツンとあるという感じでした。道路については、アスファルトの道は 70 キロ以上の速度で走るときだけで、住宅地の道はレンガ造りの道でした。

■ ホストファミリーについて

僕のホストファミリーはとてもやさしく、とても親身になって接してくれました。今でも感謝の言葉しかありません。

まず、お母さんはとても明るい人で、いつも一緒に行動してくれました。レストランで食事するときにも「もしあなたが友達と一緒に食べたければ、一緒に食べてもいいですよ。」と声をかけてくれました。

次に、デミさんです。デミさんは、昨年デルフザイル市からの派遣で日本に来ていたので、日本のことをよく知っていました。デミは、九月から大学生になりますが、今はスーパーで働いていて、僕にスーパーを案内してくれました。少し無言になってしまっても、話しかけてくれて、とてもいい人でした。

最後にお父さんです。お父さんは船のエンジニアをしていて、会社を見せてもらったりしました。また、日本の文化に興味があるらしく、とても楽しそうに僕の話聞いてくれました。

僕は、このホストファミリーだったからこそこんなに楽しいホームステイができたのだと思います。



お祖母ちゃん（ホストマザーのお母さん）です。



■ 訪問団に参加して

僕はこのホームステイで緊張せずに外国の方と話せるようになりました。また、今後もホストファミリーとメールでやり取りして、自分のことや日本のことを伝えたり、オランダのことを学んだりしていきたいと思います。そして、自分の世界を広げていきたいと思います。

今回のホームステイは、それぞれとても個性のある良いメンバーでお互いの良さをだしあえたと思います。このホームステイは、僕にとって絶対に忘れられない一生の思い出です。

マルティーニ塔

ホストファミリーです。

色々な所に連れて行ってもらったり、日々の生活の世話をしてもらいました。



長谷川 鴻

Hasegawa Ko

(ホストファミリー Voskamp 家)

■ デルフザイル市の印象・体験

デルフザイル市は自然に囲まれてきれいな街並みの素晴らしい所でした。

街で見かける人はみんな僕より背が高く、少し怖かったけれど本当にみんな親切で近所の人などフレンドリーに僕に話かけてくれました。

周南市と似ているところは、中華やイタリアンなど色々な食べ物を食べているところです。パンばかり食べているのかなと思っていたけれど芋やパン、米も週に一回くらい食べていると知り驚きました。夜ご飯としてパンが出ることはなく、芋が主食でした。

体験したことで特に楽しかったことは森でのアクティビティーです。日本人もオランダ人も関係なく楽しみました。



エオリスの風車の上からとった写真です。
レンガ造りのきれいな街並みを見ることが出来ます。

永源山公園のゆめ風車のモデルになったエオリスの風車に登りました。上からの眺めはとてもきれいで、山がないので遠くまで見渡すことができました。

■ ホストファミリーについて

ホストファミリーは、お父さんのルド、お母さんのサネット、兄のフランクと妹のサビネの4人家族で、犬を1匹とねこを2匹飼っていました。サビネは僕と同じ歳でしたが、とても背が高く賢くて同じ年齢とは思えませんでした。

お父さんに料理を教えてもらったり、お母さんには買い物に連れて行ってもらいました。

ホストファミリーと過ごした2日間ではフローニンゲンや大きな動物園に行きました。フローニンゲンではマルティーニ塔に登りました。マルティーニ塔は97mもあります。僕はそこにエレベーターで上がるのかなと思っていましたが、延々と螺旋階段が続いていて、驚くと同時に登る前から疲れしました。塔の上からはフローニンゲンのきれいな街並みを一望することができました。日本では見ることのできない地平線を見ることができました。日曜日にはバーガーズ動物園に行きました。バーガーズ動物園はオランダで最大の動物園で、アーネムという町にあります。デルフザイルからは車で約2時間かかりました。

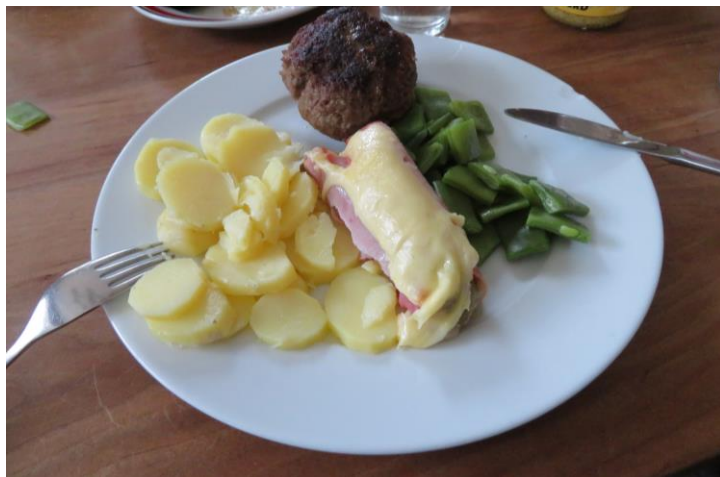
ホストファミリーはとても親切で別れるときはとても悲しかったです。

兄のフランクは3年前にこの市の交流で僕の家に来たことがありました。3年ぶりに会えてとてもうれしかったです。

■ 訪問団に参加して

オランダではもっぱら英語を使っていました。オランダ語と日本語という言葉のみぞを英語で埋めることが出来るからです。

オランダはほかの国と近いためフランス語やドイツ語、英語など多くの語学を学んでいるそうです。それを聞いて僕はすごいなと思いました。これから、まずは英語を頑張りたいと思いました。



お父さんが作ってくれました。ミートボールは拳大くらいの大きさに1個食べるとお腹がいっぱいになります。



バーガーズ動物園です。オランダで一番大きな動物園だそうで、園内全てを見て回るのがとても疲れしました。



マルティーニ塔の一番上から撮ったものです。街が広がって遠くには地平線が見えます。



フローニンゲン市から来てくれた合気道の先生。
まさかオランダで合気道ができるなど思ってもいませんでした。

福永 士輝

Fukunaga Shiki

(ホストファミリー Stegenga 家)

■ デルフザイル市の印象・体験

僕がデルフザイル市に行って受けた印象は、とても優しい人が多かったと感じました。ほとんどの人が日本が好きでも歓迎してくれていました。

そしてオランダは自然の景色がとてもきれいでした。出かけるとき、色んな道を通りましたがどの道も一つに選ぶことができないくらいきれいでした。

2日目、初めてホストファミリーに出会って何を話せばいいかわからずホストファミリーも話しかけてくれるのにあまり聞き取れずコミュニケーションが取れなかったのもとても悔しかったです。

3日目、前の日の反省を生かしてだいが聞き取れてしゃべれるようになってうれしかったです。そして夜にはホストファミリーたちとバーベキューに行くとき見てみたかったエオリスの風車に訪れました。そこで初めてホストファミリーと個人的に写真を撮りました。

4日目、初めてのオランダで迎える休日の1日目でした。休日は自由行動で朝、市場を見に行きました。行った市場は中学1年生の時教科書で見たところで感動しました。



オランダの街を歩いた時の写真。昔ながらの風景があった。

街の建物も昔ながらの建物で、日本とはまた違う美しさがありました。

5日目、僕は合気道をやっているのですが僕のためにオランダの合気道の先生が会いに来てくれました。武道は世界共通なんだと身に染みて感じました。

6日目、ブールダング要塞を訪れました。大砲など日本では見られないものがあってすべてが新鮮でした。

7日目、とうとうお別れ会の日が来ました。今まで一緒にしてきたことを思い出して泣きそうになりました。自分たちの発表もうまくできたと思うのでよかったです。

8日目、ついにお別れの日が来ました。別れた後、感極まってバスの中で泣いてしまいました。ホストファミリーと過ごした日を一生忘れません。

■ ホストファミリーについて

インガ（お母さん）、パトリック（お父さん）ダレン（子供）の3人家族でした。とても仲が良くいい家族でした。ダレンはレゴが好きでお別れのときにレゴをくれました。このレゴは僕の宝物です。僕には兄弟がいないので短い期間でしたが弟のように思えました。

そしてパトリックは毎日ごはんを作ってくれました。いつもオランダの料理を作ってくれてすべての料理がおいしかったです。

インガは毎日僕を心配してくれてとても優しかったです。空手家ということもあって規則正しい生活を心がけていました。おかげで体調も崩すことなく快適に過ごすことができました。

■ 訪問団に参加して

僕がこの訪問団に応募した理由に人に何かを伝えることが苦手でそれを改善したいと書きました。行ったことのない土地、実戦で初めて使う英語、すべてが初めてで新鮮でした。

ホームステイという手段でいつも使っている言語を遮断し英語でコミュニケーションをとることで相手に伝えなきゃいけないという思いが出てきて、それによって少しは人に伝える能力が成長したと思います。

そしてオランダで学んできた文化等を忘れずにこれから益々外国と結びついていく社会に役立てたいです。



お別れのときに撮った写真で、僕のお気に入りの写真です。



海洋青年団プログラムで船に乗る体験



クライミング・パーク・フロアでジップライン体験



ホストファミリーです。他に双子の兄弟が 1 人いますが、今は航海中で会えませんでした。

安村 洋太

Yasumura Hirota (ホストファミリー van Donderen 家)

■ デルフザイル市の印象・体験

デルフザイル市についたときはとても田舎だなと思ったけど実際に足を踏み入れてみると、とても落ち着いた雰囲気ですごくいい街だなと思いました。周南市より車も少なく、高い建物もほとんどない環境での生活は落ち着くことができとても好きでした。気温はエアコンが効いた部屋より少し涼しいくらいでとてもいい環境でした。ホームステイ先の家族とサイクリングをしてみたなら思っていた以上に街が広くて驚きました。スーパーマーケットや駅もあり、公共施設は新南陽と似ていると感じました。近くに湖も海もあり僕にとってはとても居心地が良いところでした。

今回のデルフザイル市訪問で一番心に残っていることは堂安選手に会いに行ったことです。他にもモーターバイクに乗せてもらったり湖で泳いだりたくさんの思い出ができました。

デルザイル市役所には丸い円盤のものがあそこには新南陽と漢字



湖で遊んだ時。
船を3隻も持っていて名前が家族ひとりひとりの名前で驚きました。

でかかれてありました。本当に周南市とデルフザイル市はつながっているのだなと感じました。デルフザイル市の方々はとても優しく、穏やかでたくさんの友達ができました。そして、お別れの日はとても寂しいものとなりました。

■ ホストファミリーについて

僕のホストファミリーの家族構成はお父さん、お母さん、お兄さんが二人、お姉さんが一人、犬が二匹です。僕は妹二人の三兄弟なので自分が体験したことのない末っ子でした。お父さんは船のキャプテンで、とてもかっこよかったです。お兄さん二人は双子でその中の一人は航海中で会うことができませんでした。犬たちは帰ってくるといつも玄関から出てきて、とてもかわいかったです。はじめ、ホストファミリーの方とどのようにコミュニケーションをとればいいのか不安になったけど、ホストファミリーの方々が優しく話しかけてくださいました。そのおかげでとても過ごしやすくなりました。その家族は、大きな船を2隻と小さなボートを1隻持っていて、その船の名前がホストファミリーひとりひとりの名前でした。その船の一つにはベッドやキッチン、テレビ、トイレがあり、オフシーズンはここで生活すると言っていました。家はとても広く、庭にはバーベキュー専用の小さな家がありました。その家の中にはソファと机、テレビがあり、バーベキューの時はとても楽しいのだろーうと思いました。車は4台もありとても小さなミニバンから一番前の席に3人も座れるとても大きなものまでありました。デルフザイル市を出る時には、たくさんのお土産をもたしてくれました。ホストファミリーのみなさんと過ごした時間はとても楽しいものとなりました。

■ 訪問団に参加して

今回のホームステイで伝えたいことを伝えるにはジェスチャーや表情を使うなどの工夫と、伝えようとする心構えが必要だとわかりました。これを機に英語を好きになりました。

そして、もっと話せるようになりたいと思うようになりました。だから英語をたくさん勉強したいです。

そして、英語を中心とし、その他の言語も勉強し、世界に貢献できるような人になりたいです。

そして、いつかはお世話になったホストファミリーの皆さんに恩返しをしたいと思います。



デルフザイル市役所



ホームステイ先



モーターバイクに乗せてもらいました。



渡邊 心花

Watanabe Cocona

(ホストファミリー Wolswijk 家)

■ デルフザイル市の印象・体験

私は、今回初めて海外に出ました。日本から、かなり遠いオランダ、不安と緊張もありましたが、何よりもワクワクしていました。

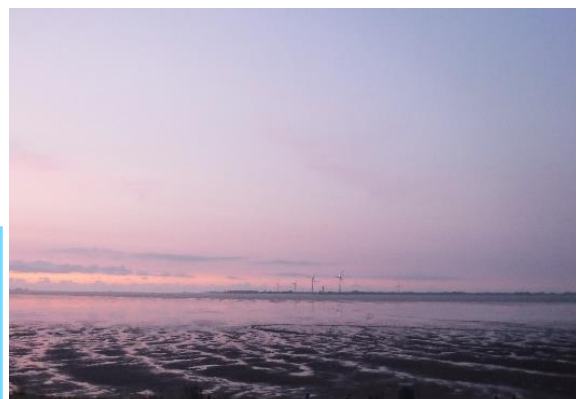
澄んだ空気と美しい自然豊かな町、日没が“21 時”と遅いことには驚きと戸惑いを感じましたが、私の住んでいる熊毛と似ていて一気に緊張はほぐれました。英語が話せない私に対して、ホストファミリーをはじめ関わった全ての方々が私を理解してくれようと目を見て、ジェスチャーをふまえて温かく接してくれたことがとても嬉しかったです。

ホストファミリーは、アザラシの餌やりやボートの上での食事、フローニンゲン州のマルティーニ塔、ドイツへのドライブ等々毎日必ず“初めての体験”を私にさせてくれ、充実した忘れられない日々を過ごさせてくれました。

左側の風車はオランダ、右側の風車はドイツ。
干潮時だったので海を歩いて渡りドイツにも行きました！
“海を歩いて渡って隣の国へ行く”なんて改めて
“日本は島国なんだなあ”と思いました。



アザラシに餌やりをしました。



■ ホストファミリーについて

私のホストファミリーは、ボランティア活動でアザラシのお世話をしていました。休みの日に連れて行ってもらい餌やりのお手伝いをさせてもらいました。施設で保護されたアザラシは、自分で餌を取れるようになるまで成長したら海に返します。この日は、2頭のアザラシが海に帰る日だったので、仲良く海に帰っていく姿を見届けることができました。ショッピングにも連れて行ってもらい指輪を買ってもらいました。この指輪は私の宝物です。ホストファザーはほぼ毎日、みんなの朝ご飯を作ってから仕事に行きます。夕飯も作ってくれる日もあり、とても料理上手です。

日本から持って行ったカードゲーム“ナインティール”で、家族みんなで遊びました。福笑いやけん玉も持っていったのですが、ナインティールが一番盛り上がりました。オランダでは日没が遅く、天気の良い日は23時でも明るいので、21時まで外で“かくれんぼ”をした日もありました。

みんな明るくて優しく、私のことも家族としていつも気遣ってくれました。Sanneは日本のロックバンド『ONE OK ROCK』のファンでドライブの時は一緒に音楽を楽しむことも出来ました。

アーチェリーも初体験でした！他のホストファミリーとの合同BBQも遅い時間まで楽しみました。フローニンゲンでは塔に登り街を一望しました。教会が沢山あり驚きました。

英語が話せない私を色々な所に連れて行ってくれて、いつも笑顔で接してくれたホストファミリーと出会えたことは一生の宝物です。ホストファミリーとの別れの日、ホストマザーが昼食に…と作って、持たせてくれたサンドイッチの味も一生忘れません。



町中には川があり大きな船が通過するときには左写真の様に橋が上がり、橋の裏側には右写真の様に絵が描いてあり『オシャレだなあ』と思いました。見上げるとキラキラ光った水面が絵に反射して、とても綺麗でした。



デルフザイルの港で海洋青年団の方にボートに乗せてもらい、ボートの操縦もしました。初めての操縦だったのでアクセルレバーを回しすぎてぶつかりそうになってとても怖かったです。

■ 訪問団に参加して

この訪問団に参加して『怖がらず、チャレンジする！』ということの大切さを体感しました。ホームステイ先で一日目、何を言えばいいか…伝わらず険しい顔をされたら…と思うと、一言も発することが出来ませんでした。二日目の朝、Sanneに『間違ってもいいから自分で喋ってみて！』と和訳アプリを使って言われチャレンジする勇気をもらいました。周りの優しさばかりに甘えるのではなく、自らも歩み寄っていく事の大切を学びました。ホームステイ終盤には、間違っていたかもかもしれないけど、英語で少しでも会話し合える様になっていました。その頃には『まだ帰りたくない！』と、強く思う自分がいました。

また必ずデルフザイルに行き、ホストファミリーと再会したいです。その時には私から英語で話しかけたいです。

最後に友好親善訪問団に関係された周南市の皆様は勿論、デルフザイル市の皆様、貴重な体験をさせて頂き本当にありがとうございました！



ホストファミリーと初めての対面です。

澤野 航

Sawano Ko

(ホストファミリー Meijer 家)

■ デルフザイル市の印象・体験

デルフザイル市はとてものどかで居心地が良い場所でした。近隣の住人同士の仲がとても良く、自然を身近に感じることができる場所でした。デルフザイル市では数え切れないほどのたくさんの体験をしました。ホストファミリーとボートで湖に遊びに行ったり、ボートで街に出て外食したり、買い物に行ったりしました。みんなでバーベキューをしたり風車を見に行ったりしました。バーベキューでは自分からオランダ人に積極的に話しかけることを意識し、自分の英語力やコミュニケーション能力を試すことができました。コミュニケーションがどれだけ大切なものかがわかりました。



■ ホストファミリーについて

僕のホストファミリーは皆身長が高いです。最初は怖かったけど、自分を家族の一員として迎えてくれ、緊張が解けすぐに馴染むことができました。

ホストファミリーの家です。

僕は左のゲストハウスに宿泊しました。家の近くの水路を利用して買い物に行ったりします。

僕が不安そうな顔をしていると、いつも「Are you okay?」と声をかけてくれました。ボートも運転させてもらったりドイツに連れて行ったりもしてもらいました。ドイツとオランダの国境に行ったときは、日本では国境を自分で渡るということは出来ないのととても新鮮な経験でした。長男の Marijn はとても頭が良く、大学についてのことなど色々教えてもらいました。サッカー選手の堂安律選手に会いたいという自分のわがままを快く受け入れてもらい、車で1時間ほどかけ練習場まで連れて行ってもらい、ユニフォームまで買ってもらい、サインをもらうことができました。アムステルダムに戻る日の前日に荷物をパッキングしている時に自然と涙が出てしまい、ホストファミリーと過ごした時間がどれだけ充実していて、居心地が良かったかに気づかされました。とても感謝しています。

とても楽しくてたくさんのことを学ぶことができました。これらのことを今後の生活に活かしていきたいです。



ドイツとオランダの国境に行った時の写真です。
日本では国境を自分で渡るということは出来ないのととても新鮮な経験でした。

■ 訪問団に参加して

この周南市友好親善訪問団員の一人としてオランダに行き学んだことは、コミュニケーションをとることの難しさと大切さです。バックグラウンドが全く違う人たちとの会話は自分の考えがうまく伝わらなかったりすることがありました。だけど諦めずに、ジェスチャーなどを交え一生懸命伝えることが大切だとわかりました。この訪問で自分の英語力がまだまだだと気付かされまだまだ努力しようと思いました。この経験を今後の生活に活かしていきたいです。



ホストファミリーです。母に見せると、みんな背が高いねと驚いていました。お父さんの身長は2mありとても迫力があります。見た目はとても怖いけどとても優しく、初めて会った時に優しく迎えてくれました。



城 実里 Jo Misato

(ホストファミリー te Braake 家)

■ デルフザイル市の印象・体験

デルフザイル市役所に到着したとき、ホストファミリーの皆さんは音楽団と一緒にあたたかく迎えてくれました。とてもアットホームな優しい人ばかりでした。デルフザイルでの様々な体験の中でも特に風車に行ったことは印象的です。中に入って上まで上がったのは初めてでした。外観は新南陽にあるゆめ風車とほぼ同じでした。その後、バーベキューをしました。食後、他のホストファミリーと辺りを散歩しました。そこで現地に到着してから二日目ということもありまだ緊張していましたがホストファミリー以外のオランダ人と話せたのはこの日が初めてでした。



ホストファミリーとサイクリング。湖を見てカフェやショッピングに行きました。



アザラシが現れるかもしれない、という場所にみんなで行きました。人生初めての地平線を見て感動。

■ ホストファミリーについて

私のホストファミリーは農場を経営していました。最も印象に残ったことは搾乳です。ホストファザーは私に搾乳の仕方を教えてくれました。手作業ではなく、機械を装着して搾乳を行いました。一からやり方を教えてくれた優しいホストファザーでした。

ホストマザーが作ってくれるものはどれもとてもおいしかったです。語学療法士として小さい子供に言葉を教えているそうです。いつも優しく、とても分かりやすい英語で話してくれるホストマザーと話すことはとても楽しかったです。

兄弟はプラウン(18・長女)、ティース(16・長男)、エムカ(15・次女)、アン(12・三女)、シュー(8・四女)の五人兄弟でした。

プラウンとは池を経由してサイクリングに行きました。途中カフェによってチョコレートを飲みました。とてもこれが好きになって、帰りにたくさん持たせてくれました。ネックレスと香水も選んで帰りにプレゼントしてくれました。

ティースは、いつも農場を手伝っていて、小さいところを乗せてトラクターに乗る姿はとてもかっこよかったです。また彼は英語がとても上手で私のつたない英語を拾って分かりやすい英語で返してくれました。

エムカは料理も歌も上手でした。8月4日はエムカの誕生日でした。自分で三種類ものケーキを作っていました。お別れ会でのスピーチのオランダ語は彼女が教えてくれました。来年周南市で会えるのが楽しみです。

アンはいつも傍にいてくれました。バイキングのやり方など、分からないことをたくさん教えてくれました。牧場を案内してくれたり、とても12歳には見えませんでした。

シューは英語が話せませんでしたが一緒に子猫を探したりトランポリンをしたりたくさん遊びました。言葉は通じなくてもたくさんの思い出が出来ました。

■ 訪問団に参加して

この訪問団の参加を通して英語が好きになりました。英語が通じて会話が成立したときとても嬉しかったです。もっと英語が話せればきっともっと楽しいと思います。だから来年の夏また出会えると信じて今から英語の勉強に力を入れていきたいです。



ホストファミリーが経営する農場。ここで搾乳体験をさせてもらいました。



夜、ホストファミリーとここでお菓子を食べながら映画を見たり、音楽を聴いたりしました。



フローニンゲンの美術館にて。壁の前でポーズをとり、ライトにあたると影が残る、という面白いものでした。



マヨラインとツーショット。
オランダで定番のワッフルを食べています。

林 望 Hayashi Nozomu (ホストファミリー Dragstra家)

■ デルフザイル市の印象・体験

私は、ホームステイをさせて頂いてデルフザイルと周南市の身近な生活習慣の違いを知りました。朝食は、パンに硬いチーズやバター、チョコレートかけたものでした。自分の家では作らないクロワッサンが出てきたり、チョコレートがチョコスプレーだったりして驚きました。焼きたてのクロワッサンはとても美味しかったです。

ホストファミリーと面会した日の次の日の午前中、マーケットに行きました。マーケットでは魔女の恰好をした人が何人かいて、他の恰好をしている人もいました。顔に何かを塗ったりして、本格的でした。マーケットで仮装をするところは、日本と違うなと思いました。その日の昼食は、ホットケーキの様な生地に粉砂糖とバターをかけたものを、屋台で買って食べました。食べやすく美味しかったです。ホストファミリーは、「小さいパンケーキ」と言っていました。また飲み物を売る屋台もありました。



アムステルダム市内
路上に置いてあるたくさんの自転車と、川に浮かぶ家

8月4日、アーネム野外博物館に行きました。後で調べたことですが、そこはオランダ各地の農家や商店などを移築しオランダの庶民の生活を伝えていこうとするもので、今から100年前の1918年に最初の移築が行われ、公開されました。100年前の住居は日本の縄文時代の竪穴住居の様な造りでしたが、中のテーブルやいすは現代と同じようなもので、違和感を感じました。



アーネム野外博物館で。左側の四角に開いている部分は寝る所。写真に写っていない手前部分には家畜用の場所がある。

■ ホストファミリーについて

ホストファミリーとして私を迎えてくれたのは、お母さんのヘドウィグと16歳の女の子のマヨラインです。二人ともとても親切に何かを教えてくれたり、「Would you like something to drink?」とよく尋ねてくれました。

ホストファミリーは2匹の犬と、5頭の馬を飼っていました。犬はとても人なつこくて、私が初めて会った時もジャンプして喜んでいました。馬5頭のうち2頭は小さくて、種が違うそうです。馬が運動するために、家の近くの場所に連れていくのを手伝ったのですが、そこで馬が走っているのを見ることができました。手綱を引いて連れていく時、馬が急ぐのでまっすぐ歩くのが大変でした。

ホストマザーは「彼らは（行く）場所を知っているからだ」と言っていました。



アーネム野外博物館内の店。棒状のあめはホストファミリーが似たものを買ってくれた。

■ 訪問団に参加して

私は、「英語をたくさん話すことでコミュニケーションをとる」ことを目標にしていたのですが、あまり達成できなかったと思います。難しかったのは、相手の言うことを理解することです。自分から話すことはできても、相手の言ったことに返すことができなかったのも、やはり、もっと積極的に気持ちを伝えようとするのが大切だと思いました。

訪問団に参加して、人間性を含めた文化の違いを感じましたが、ホストファミリーはとても優しくしてくれて、嬉しかったです。私が感じたホストファミリーの優しさは、人としての世界共通の文化だと思います。このことは、日本人1人で外国のお宅にホームステイしたからこそ実感できることだと思います。

これからも、チャレンジすべき時にはその機会を逃さずに過ごしていこうと思います。



ホストファミリーが飼っている馬
ここで元気に走り回っていた。



ホストファミリーのボッシャーさんです。東京に留学経験があり、周南市へも何度か来たことがある、日本をこよなく愛するオランダ人です。

守重 一史 Morishige Kazufumi (ホストファミリー Bosscher 家)

■ デルフザイル市の印象・体験

デルフザイル市は街並みが美しく、長閑な雰囲気、心優しい方々が住む素敵な町です。私は、今回が2回目の訪問となるため、前回同様、私たち訪問団が非常に温かいおもてなしを受けることは予想していましたが、今回もやはりその予想を裏切らない素晴らしい対応をしていただきました。まず、我々を受け入れてくださったホストファミリーの方々ですが、常に団員達に寄り添い、滞在期間中、我々が楽しく過ごせるよう色々な所へ連れて行ってくれ、様々な体験を提供してくれました。また、私たちの受け入れのお世話をしてくれた姉妹都市交流財団は、団員が楽しみつつもオランダの文化を体験できる、趣向を凝らしたプログラムをたくさん用意してくれました。まさにデルフザイルクオリティとも言えるべき、日本人と同様のおもてなしの心を持って、私たちをもてなしてくれました。そんな中、団員達も各プログラムに積極的に取り組んでくれたため、とても充実した交流ができたと思います。今回の団員達は出発前の事前研修の時は、皆おとなしい子ばかりだったので、デルフザイルで上手く交流できるか不安でした。しかし、そんな心配をよそに、ホストファミリーをはじめ、現地の人々と積極的に交流を行い、笑顔で楽しんでいる様子が伺えました。



ホームステイ先

■ ホストファミリーについて

私のホストファミリーは、ロバート・ボッシャーさんという、29歳一人暮らしの方でした。一人暮らしですが、大自然の中にポツンとある一軒家に住んでおり、人里離れた環境で一週間暮らすことになりました。見ず知らずの方と二人だけで、そのような環境で過ごすことに戸惑いがありましたが、ボッシャーさんはとても気さくな方だったので楽しく過ごすことができました。彼は、友好親善訪問団員として周南市を訪れたこともあり、東京で留学生活を送っていたこともあるため、日本について詳しく、日本の話題で夜遅くまで盛り上がりました。

土曜日は、ボッシャーさんの親族の方々や姉妹都市財団のヨハネス・スワルト会長などが集まり、お庭でバーベキューを行いました。ボッシャーさんに「日本食を作ってほしい」と言われたので、フローニンゲン市にあるアジアンスーパーマーケットにて食材を購入し、カレーを振舞いました。日本のカレーはとても好評で、あっという間に無くなってしまい、危うく自分たちが食べ損ねてしまうところでした。

日曜日は、ボッシャーさんのご自宅のあるテルムンテン周辺をサイクリングしました。途中、ボッシャーさんのご実家に寄り、トラクターの運転を体験させていただきました。ボッシャーさんのお父様の所有する農場はとても広大で、オランダの農業の規模の大きさを実感することができました。途中休憩はありましたが、5時間以上自転車をこぎ続けたため、家に戻って来た時には、足が悲鳴をあげていました。



弟さんの農場での収穫風景



サイクリングの途中で魚の唐揚げをテイクアウト。とても美味しかったです。

■ 訪問団に参加して

今回もまた、デルフザイル市民の皆様による心温まる素晴らしいおもてなしを受けることにより、両市における姉妹都市締結29年の歴史と交流の深さを、身を持って感じることができました。日本人と同様のおもてなしの心を持つデルフザイルの方々には本当に貴重な存在で、デルフザイル市だからこそ、長期に渡る訪問団の相互派遣をはじめとした各種交流事業が継続できているのであり、この関係は、今後も決して絶やすべきでないと改めて感じました。

団員の皆さんには、今回知り合ったデルフザイル市の方々との交流を末永く続けてほしいと思います。きっと、皆さんの大きな財産となると思います。

私の力不足の点もあり、デルフザイルの方々と上手く交流できなかったという団員もいるかもしれません。それでも、今回の全ての経験が、今後の人生の大きな糧となることは間違いのないため、団員達にはデルフザイルでの思い出を大切にしてほしいです。

2020年は私たちがおもてなしをする番です。来日される訪問団の方々に、周南市の良さをしっかりと伝えることで、今回お世話になったお返しをしたいと思います。

15名の団員を含め、多くの方々との出会いや貴重な体験は、これからの私の人生において大きな財産になると確信するとともに、友好親善訪問団派遣に携われた全ての関係者の皆様方に対し、心より感謝いたします。本当に、ありがとうございました。



6年前にホームステイしたフロート夫妻にもお会いしました。

Fantastic Memories★

Amsterdam



Delfzijl





デルフザイル市訪問までの事前説明会や帰国後の報告会の様子を紹介します！！

事前説明会（5月26日、6月9日、7月7日）



事前説明会では、お別れ会での出し物やグループ学習のテーマを決めました。

出し物は、「幸せなら手をたたこう【英語バージョン】」と「世界に1つだけの花」を歌うことになり、各自、家で練習しました。

グループ学習では3グループに分かれ、それぞれ「文化」「教育」「経済」について日本とオランダの違いを調べることになり、事前に日本のことを調べたり、オランダのことについて予想したりしました。また、ホームステイの心構えや英会話学習なども行いました。

壮行会・最終説明会（7月28日）



壮行会では、市長や団員の在籍する学校の先生方、保護者のみなさんの前で、1人ずつ決意発表をしました。その後の最終説明会では、保護者のみなさんに対し、お別れ会の出し物を披露しました。前回の練習の時より格段に上手になっており、家での練習の成果が出ていました。

事後研修会（8月28日）

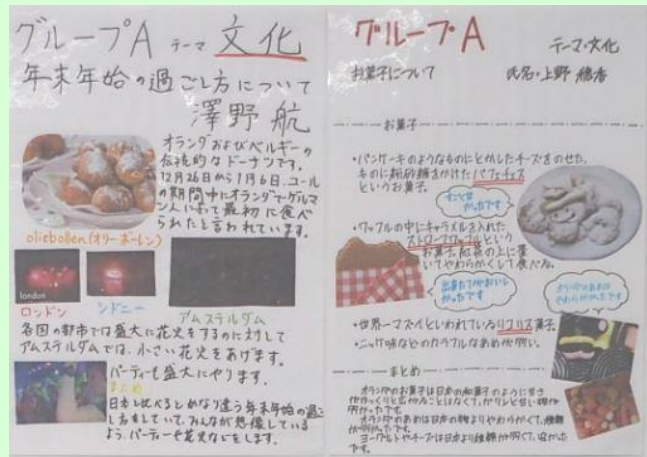


帰国後は、グループ学習のテーマについて、現地で調べたことをまとめました。ホストファミリーに質問したり、写真を撮ってくるなどしてしっかり調査してきたようで、限られた時間の中でまとめを作成し、発表の練習をすることができました。



帰国報告会では、まずグループごとに写真を使いながらグループ学習の成果を発表しました。その後、1人ずつ現地での活動報告を行いました。

壮行会の時と比べて、堂々と自信に満ちた様子で、皆さん素晴らしい発表をしていました。

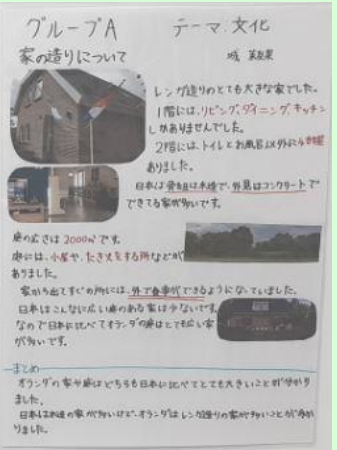
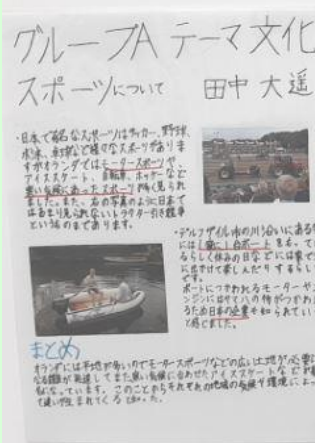


A グループ

テーマ

「文化」

- ・ 年末年始の過ごし方
- ・ お菓子
- ・ スポーツ
- ・ 食べ物
- ・ 家の造り





グループB テーマ: 教育
教育制度について 城 実里

Rudolph Raba Cleevinga Lyeum

オランダでは、公立と私立の学校があり、家から近い私立学校に通う生徒も多いです。外資系私立学校は、日本の私立学校と比べて、英語を重視しています。最近では、公立学校でも英語を重視する学校が増えています。

（オランダでは、公立と私立の学校があり、家から近い私立学校に通う生徒も多いです。外資系私立学校は、日本の私立学校と比べて、英語を重視しています。最近では、公立学校でも英語を重視する学校が増えています。）

（オランダでは、公立と私立の学校があり、家から近い私立学校に通う生徒も多いです。外資系私立学校は、日本の私立学校と比べて、英語を重視しています。最近では、公立学校でも英語を重視する学校が増えています。）

（オランダでは、公立と私立の学校があり、家から近い私立学校に通う生徒も多いです。外資系私立学校は、日本の私立学校と比べて、英語を重視しています。最近では、公立学校でも英語を重視する学校が増えています。）

グループB テーマ: 教育
習い事について 内田 亜希

（習い事の種類）
日本の習い事は、音楽やスポーツが中心です。オランダでは、音楽やスポーツだけでなく、ダンスや絵画なども人気です。

（習い事の理由）
日本では、習い事は義務感から通っている人が多いです。オランダでは、習い事は楽しみのために通っている人が多いです。

（習い事の費用）
日本では、習い事の費用は高いです。オランダでは、習い事の費用は安いです。

B グループ

テーマ

「教育」

- ・ 教育施設
- ・ 習い事
- ・ 教育制度
- ・ 教科
- ・ 学校生活

グループB テーマ: 教育
橋本 実人

項目: 教育制度について

1. 学校区について
オランダには学校区はなく、自分で選んだ学校に行きます。日本のように学区の制限はありません。自転車や車で通学する生徒も多いです。周南市では通学区域制度で決められた学校に通っています。

2. 義務教育について
オランダでは5歳から17歳までの12年間です。日本と同じで、大卒まで行きます。

まとめ
オランダの教育は、日本よりも長く、通学区域制度がなく、学校が自由に選べます。今日の学習でオランダの学校は自由度が高いことが分かりました。

グループC テーマ: 教育
橋本 実人

教科について

Q1. オランダでは何教科ありますか?
A1. 小学校では7教科あります。中学校では約13のコースがあり、それぞれ教科の数が違うようです。周南市の小学校は約13教科が多いので意外に少ないと感じました。

Q2. オランダでは何の教科が得意ですか?
A2. 小学校では英語が得意です。中学校では生物学、英語、スポーツが得意です。周南市では数学が得意な人が多いので意外に少ないと感じました。

グループB テーマ: 教育
橋本 実人

習い事について

（習い事の理由）
日本では、習い事は義務感から通っている人が多いです。オランダでは、習い事は楽しみのために通っている人が多いです。

（習い事の費用）
日本では、習い事の費用は高いです。オランダでは、習い事の費用は安いです。



グループC テーマ: 経済
物価について 林 望

私は日本とオランダの物価を比べてみました。

水（ミネラルウォーター）
日本のミネラルウォーターは、オランダのミネラルウォーターよりも高いです。オランダのミネラルウォーターは、日本のミネラルウォーターよりも安いです。

バス
オランダのバスは、日本のバスよりも高いです。オランダのバスは、日本のバスよりも安いです。

グループC テーマ: 経済
交通について 窪田 仁樹

バス
オランダのバスは、日本のバスよりも高いです。オランダのバスは、日本のバスよりも安いです。

電車
オランダの電車は、日本の電車よりも高いです。オランダの電車は、日本の電車よりも安いです。

C グループ

テーマ

「経済」

- ・ 物価
- ・ 交通
- ・ 輸入品
- ・ 住宅（不動産）
- ・ 輸出品

グループC テーマ: 経済
輸入品について 野見山 遼

食品
スーパーマーケットには、日本の食品が多くあります。オランダの食品は、日本の食品よりも高いです。オランダの食品は、日本の食品よりも安いです。

自動車
オランダの自動車は、日本の自動車よりも高いです。オランダの自動車は、日本の自動車よりも安いです。

グループC テーマ: 経済
不動産について 壺 信

建物
オランダにも日本の建物があります。オランダの建物は、日本の建物よりも高いです。オランダの建物は、日本の建物よりも安いです。

グループC テーマ: 経済
輸出品について 安村 洋太

企業
オランダの企業は、日本の企業よりも高いです。オランダの企業は、日本の企業よりも安いです。



発行 周南市 地域振興部 観光交流課

〒745-8655

山口県周南市岐山通1-1

TEL(0834)22-8372

FAX(0834)22-8428

周南市
SHUNAN CITY